

GOOD FOODS for YOU!

ニッスイグループは、豊かな海と魚を未来につなげていきます。



ニッスイグループは、魚の力を引き出し、
さまざまな形で世界中のお客さまにお届けしています。
食用はもちろん、例えば青魚の油を医薬品の材料や健康食品に加工しています。

「魚をムダなく大切にする」

これは、100年以上前の創業当時から受け継がれてきた志です。

これからも海の恵みを活用してさまざまな価値をお届けするため、
ニッスイグループは取り扱った魚がこれから先も使い続けることができそうか、などの
情報を定期的に集めています。

豊かな海と魚を未来につなぎながら、新しい“食”を生み出す。
これも、ニッスイが考える GOOD FOODS for YOU! です。

第43回「海とさかな」自由研究・作品コンクール 応募ガイド

発行日 令和6年5月発行

監修 「海とさかな」自由研究・作品コンクール事務局

協賛 株式会社ニッスイ

発行所 朝日学生新聞社 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2



まだ見ぬ、食の力を。



FSC®認証紙と植物油インクを採用しています。
非売品・無断転載を禁じます。



<https://www.umitosakana.com>

目次

- P1 賞の紹介
- P2-3 応募のきまり
- P4 応募の流れ
- P5-6 【まんが】作品づくりに挑戦してみよう
- P7 【研究部門】自由研究のポイント
- P8 【研究部門】観察図のポイント
- P9 【創作部門】絵画のポイント
- P10 【創作部門】工作のポイント
- P11 【創作部門】作文のポイント
- P12 【まんが】作品の紹介
- P13-14 海と魚を守るニッスイグループの取り組み

賞の紹介

最優秀賞(研究部門・創作部門)

農林水産大臣賞／文部科学大臣賞／海洋研究開発機構理事長賞／水産研究・教育機構理事長賞／日本水産学会会長賞／朝日新聞社賞／朝日学生新聞社賞／ニッスイ賞
計16点

- 上記の各最優秀賞受賞作品に対して賞状・盾・副賞として図書カード(5万円分)を贈呈します。
- 黒瀬ぶり1匹を贈呈します。

学校・団体協力賞

学校・団体応募にて登録いただいた中から、50校(団体)程度に賞状と図書カード2万円分を贈呈いたします。

優秀賞

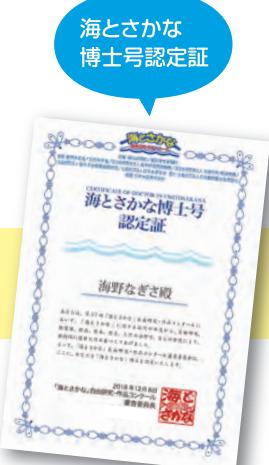
「研究部門」「創作部門」各賞の他、最終審査会まで残った作品の中から、惜しくも最優秀賞に選ばれなかった作品には優秀賞として、賞状と図書カード(5千円分)を贈呈します。

応募者全員に名前を入れた 「海とさかな博士号認定証」と参加賞を贈呈

2025年度(第44回)より新設予定!

「殿堂入り」

より多くの子どもたちに受賞の機会を与えたいため、同テーマで3回受賞した方を対象に「殿堂入り」として認定し、公表を予定しています。
(殿堂入り後は、同テーマでの受賞はできません)



応募のきまり

応募資格
小学生

テーマ 『海とさかなとわたしたち』

たくさんのいのちを育てている海。わたしたちが普段食べている魚。海も魚も、わたしたちのくらしと深くつながっています。なぜ? どうして? と、海や魚のふしぎやその美しさに目をむけて、自由研究、観察図、作文、工作、絵画で「表現」してみましょう。

審査員

猿渡 敏郎

東京大学大気海洋研究所 助教(審査委員長)

長谷川 裕康

農林水産省 水産庁 増殖推進部 研究指導課長

有本 淳

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

亀井 雅彦

海洋研究開発機構 海洋科学技術戦略部長

桑原 隆治

水産研究・教育機構 研究戦略部長

神保 充

日本水産学会・北里大学海洋生命科学部 教授

森田 和良

文京学院大学 人間学部 児童発達学科 特任教授

小林 哲

朝日新聞社 科学みらい部長

吉田 由紀

朝日学生新聞社 編集部長

吉田 桂子

株式会社ニッスイ コーポレートコミュニケーション部長

個人応募／学校・団体応募

以下の2部門5分野から選んでください。下記の規定にそって作品をまとめてください。

研究部門

A3判(29.7cm×42cm)か、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙を使用。
下記の4項目を記入する。

- ①テーマ ②動機(なぜ、この題材をえらんだか)
 - ③観察図を描いて分かったこと ④感想など
- ※貼り絵、写真の挿入禁止。

スケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)に、文章、絵、写真などを見やすくまとめる。

※サイズは、スケッチブック等の場合、B4判サイズ以内で、枚数は12枚(24ページ)以内(表紙・参考資料を含む)。

※資料を添付する場合は、三辺の合計が100cm以内、重さ3キロ以内。

※資料などで、貴重なものや壊れやすいものの場合は送付せず、写真などで代用する。

創作部門

A3判(29.7cm×42cm)、または、四つ切り(38cm×54cm)サイズの画用紙1枚(八つ切りなど小さい分には応募可能)。

※「絵画」は写真や図鑑、インターネットの画像をそのまま描くではなく、実際に見た光景や想像した世界を描くこと。

※デジタル作品の禁止。

(創作文も含みます)
400字づめ原稿用紙5枚以内。薄い文字がないように、丁寧に書く。

※1枚目の1行目にタイトル、2行目に学校(団体)名・氏名を記入。

(絵本も含みます)
工作作品:高さ+奥行+横幅の三辺の合計が100cm以内。重さが3キロ以内。

絵本作品:B4判(29.7cm×36.4cm)サイズ以内のスケッチブックなどの市販のものや、オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)を使用し、10枚(表紙を含め20ページ)以内にまとめる。

※壊れやすい材料や液体、あるいは液体状の素材を作品に使わないください。

※オンライン応募の場合は、作品の高さ・奥行・横幅を記入。

個人応募は各家庭からの応募です。学校や団体からの応募は1名であっても学校・団体応募となります。

応募について

応募申請登録期間

2024年6月1日(土)～9月27日(金)

※「海とさかな」自由研究・作品コンクールのHP(<https://www.umitosakana.com/>)から登録し、応募登録番号が記載された「応募カード」を取得してください。
※応募者名は「海とさかな博士号認定証」に印刷しますので、お間違えのないように入力してください。

作品応募受付期間

2024年6月1日(土)～9月27日(金) ※当日消印有効

作品送付先

「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富236-1 作品発送時の送料は出品者のご負担となります。

作品の送付や応募方法など、問い合わせはすべて
guide@umitosakana.comまでお願いします。

注意事項

■<作品の返却>について

入賞作品をのぞき作品は返却しません。写真やコピーで保存することをお勧めします。作品を手元に置いておきたい場合はオンライン応募(個人応募)をお選びください。

■<著作権(版権など)>について

入賞作品の著作権(版権など)は主催者・協賛者に帰属します。応募ガイドブック、株式会社ニッスイ広報誌などに二次利用する場合がございます。

■<作品名>について

作品には必ず題名(20字以内／文字数厳守)をつけてください。応募申請登録時に作品名が不明(または未定)の場合、作品名を「海とさかな」と記入してください。

■<応募カード>について

作品には必ず応募登録番号が記載された「応募カード」をつけて提出してください。「応募カード」は、各作品の分かりやすい部分にしっかりと貼り付けてください。応募登録番号は応募申請登録をすると発行されます。オンライン応募の場合は応募カードの添付は不要です。

■<肖像権>について

出張授業やワークショップ、表彰式の様子を、朝日小学生新聞やコンクールホームページ、株式会社ニッスイの広報誌、カレンダー、ウェブサイトなどに掲載する場合がございます。

入賞発表

2024年11月下旬～12月上旬に、朝日新聞、朝日小学生新聞紙上、および、「海とさかな」自由研究・作品コンクールホームページに掲載(予定)

表彰式

2024年12月14日(土)
オンラインにて開催予定

応募の流れ

はじめに登録をしよう!



6月1日(土)から 応募申請登録開始!

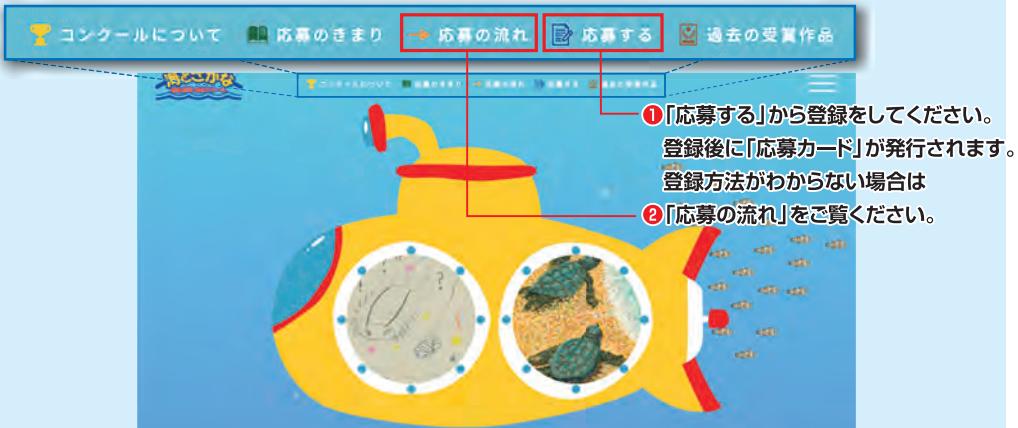


①まずはコンクールホームページをチェック!

海とさかな

検索

②応募申請登録



オンライン応募ができるよ

個人応募に限り、郵送だけでなくオンラインでの応募も受付いたします。

個人応募限定 作品を手元に置いておきたい場合は、個人応募限定のオンライン応募をお選びください。詳しい応募方法はウェブサイトの「応募の流れ」をご覧ください。
※学校や団体からは1名であっても団体応募となるためオンライン応募にはご応募いただけません

団体応募限定



こちらからお申し込みください →



6月1日(土)から 作品受付開始!

郵送でも宅配便でもOK!

「応募カード」を作品に貼り付けて、作品が壊れないように気をつけて応募してね。

●作品送付先 〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富 236-1

「海とさかな」自由研究・作品コンクール係

9月27日(金) 作品応募締切

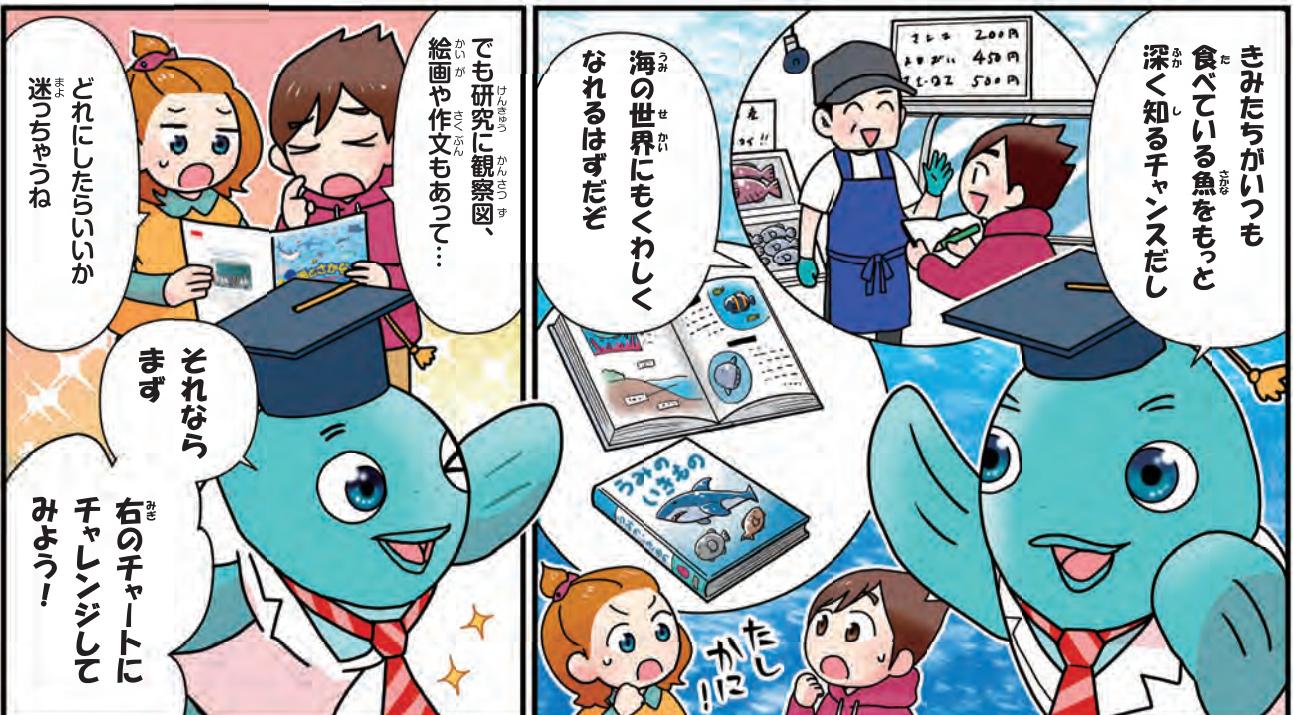
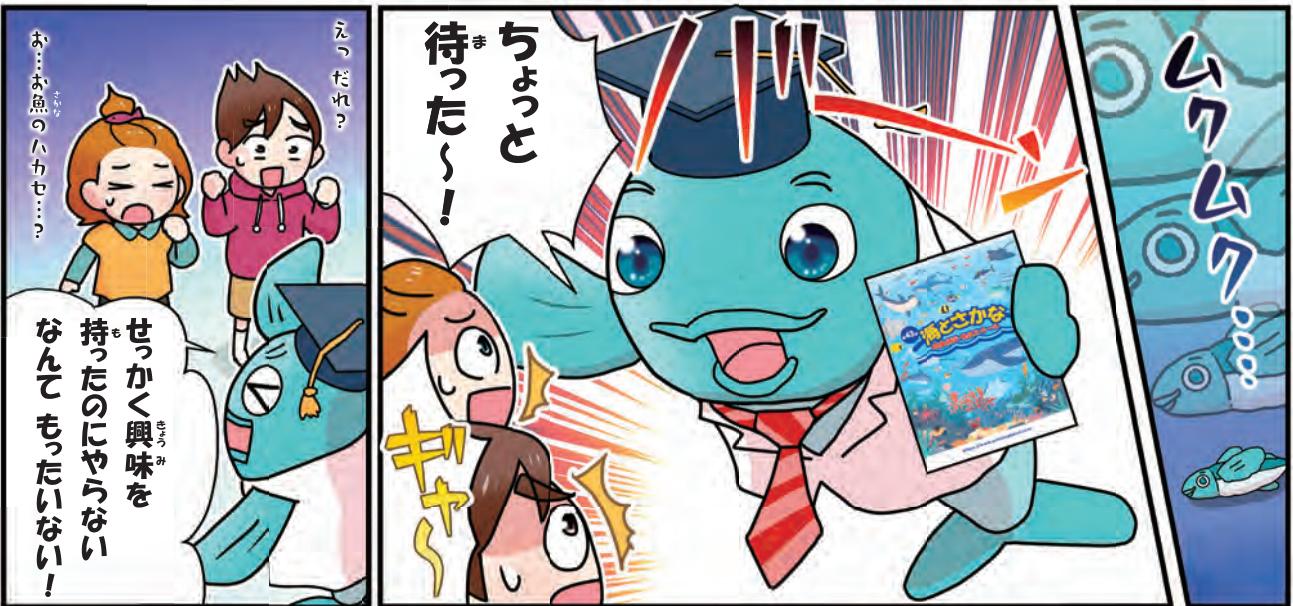
当日消印有効

余裕を持って応募しよう!

締切日に遅れないでね!

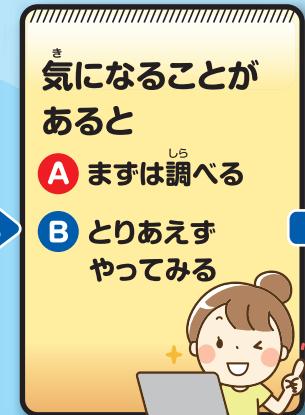
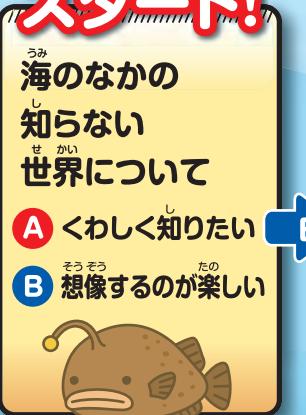


じ　ぶん　さく　ひん　ちよう　せん
さあ、みんなも自分だけの作品づくりに挑戦してみよう！



しつ もん こた おう ほ ぶん や
質問に答えて、きみにぴったりな応募分野をみつけよう!

スタート!



さく ぶん
作文

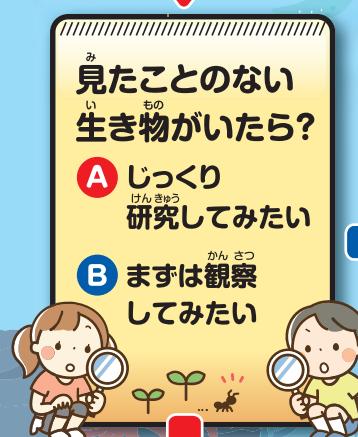
じ ぶん たい ほん
自分の体験に
もど
基づくメッセー
ジを文章で表
ものがたり
そう。物語でも
トレー
OKだよ

P11 ^



かい が
絵画
み さかな
魚や魚をのびの
かみ うえ ひら
と紙の上に表
ん
見しよう。きみ
そう そうりく はつ ぎ
の想像力を發揮
して!
P9へ

P9 ^



じ ゆう けん きゅう 自由研究

いちせい
あくまで一例だよ!
じんこう
参考にしてみてね

自由研究のポイント

1 テーマを決める

自由研究は、自分が生活の中でふしげに思ったことや、興味を持ったことを追究するのが一番! 右を参考に、自分らしいテーマを見つけてみよう。また「海の魚について」など、テーマが大きすぎたり、はっきりしなかったりすると、どんな研究をしていいか迷ってしまう。「日本海にくらす魚の種類について」というように、テーマをしぼりこんでみて。

2 假説を立てる

調べる前に、どのような結果になりそうか考えてみよう

3 研究の方法を考える

仮説を検証するためには、どの研究方法を選んだらいいか考えてみよう。もちろん、2つ以上をかけあわせるのもOK!

調べる

図書館や資料館、水族館などで情報を調べることができるよ。インターネットを利用するのも◎。

実験する

自分で「こうなるんじゃないかな?」と予想してから、結果を確かめる、自由研究の王道。

取材する

魚屋さんや港で働く人たち、水族館の職員さんなど、海と魚のプロに話を聞きに行こう。

観察する

海でつかまえた生き物を飼ったり、水族館で何種類もの生き物を比べたりするのもおすすめ!

料理する

魚をさばいて観察してみたり、どんな調理法がおいしいか調べたりするのも立派な研究だね!



4 オリジナルブック(画用紙などをとじたもの)にまとめる

画用紙、スケッチブック、ノート、アルバムなど、好きな用紙を選んで、研究したことをまとめよう。ポイントは、いきなりかき始めず、最初に下書きすること。先にノートなどを使ってレイアウトを考えておいてもいいね。文章だけでなく、調べた結果をデータで示すとさらに分かりやすくなるよ。



次の項目を入れてみよう

- 研究のテーマ
- 研究のきっかけ
- 研究の方法
- 研究する前の自分の考え方
- 研究の結果
- 結果からわかったこと
- 感想、今後の課題
- 参考にした本やウェブサイト、施設など



- いろいろな魚を料理して、どの魚が煮魚に向いているのか調べてみる
- 地球の環境の変化や、SDGsのテーマで海と魚を調べてみる
- 飼育している魚などをテーマに、観察日記をまとめてみる

※作品応募のきまりについては、P2をご確認ください。

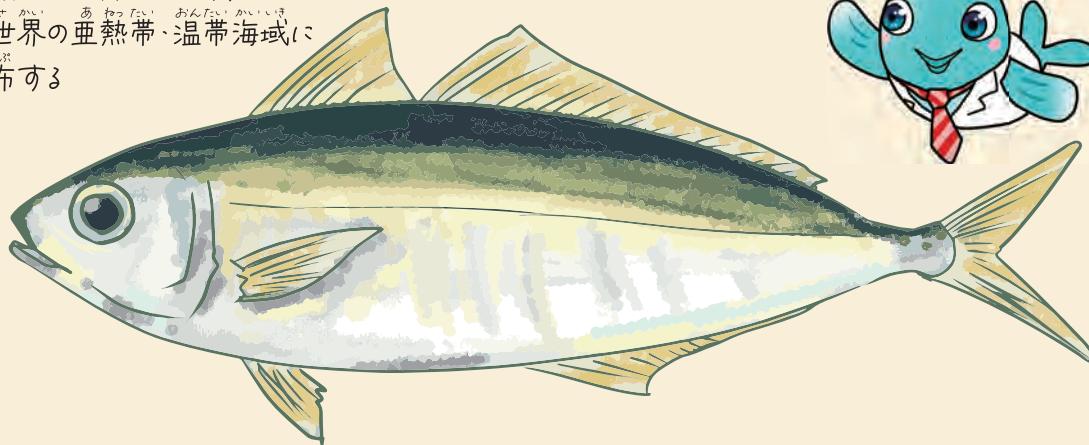
観察図のポイント

図鑑などを参考に、魚の名前と分類もチェック

観察する魚を真ん中に大きくかくんだぞ!

マアジ

海水魚
分類/アジ科 マアジ属
全世界の亜熱帯・温帯海域に分布する



以下の4つの項目の記入をわすれずに!

1. テーマ

2. 動機

3. 観察図を

4. 感想

コツ①

線は1本でかく

絵をかくとき、何本も線を引いて形をかくと上手に見えるけれど、観察図は「正しいこと」が重要だから、なるべくさけよう。線を引くのが苦手な人は、身近なものの形を「線だけでかく」練習をしてみよう。

コツ②

基本は「絵」で表現

魚の体はこうなっていて、ひれはこうで、うろこは……と、文章でたくさん説明したくなる気持ちはわかるけれど、グッとおさえて、なるべく絵で見たままを表現してみよう。

コツ③

細かく観察する

目の前に魚があるなら、部位なども細かくしっかり見てチェックしよう。「こんなところからひれが生えていたのか」「さわるとヌメヌメしているんだな」など発見があるはず。写真を見てかく場合も、細かく観察してみよう。



●自分で釣った魚を観察してかいてみる

- 近所のスーパーで、まるまる1匹で売っていた魚をさばいて観察してみる
- 水族館に行ったときに、印象に残った魚などの写真を撮って観察してみる

※作品応募のきまりについては、P2をご確認ください。

かい が 絵画のポイント

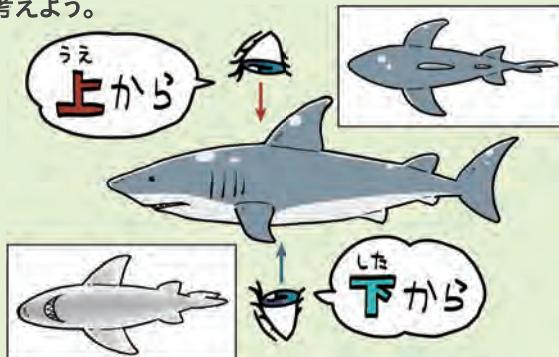
主役を決めよう

ひと口に「海や魚の絵をかく」といっても、いろいろな表現の仕方があるよ。魚を主役にした絵、人間を主役にした絵、海そのものを主役にした絵……。自分の思い出をもとにかくのか、想像したことをかくのかによっても、主役は変わってくるはず!



構図を工夫しよう

同じ魚でも、上から見下ろしたところをかくのと、下から見上げたところをかくのでは、ずいぶんふんいきが変わるはず。また、遠くから見た魚の群れをかくのと、群れの中に入ってとなりで泳いでいるところをかくのでは、絵を見た人が感じることも変化するよね。自分が伝えたいことと、それにぴったりの構図を考えよう。



かい が 絵画 テーマの例

- 海を泳いたときに見た、海のなかの魚をえがいてみる
- 海のなかにいる魚の様子を想像してみる
- 食卓にならんだ魚を、ありのままに絵で表現してみる

どんな材質でかく?

海の水の透明感を出したいならば水彩絵の具、はっきりとした色を表現したいならばアクリル絵の具、やさしいふんいきを出したいなら色えんぴつやパステルなど、画材も工夫してみよう。2つ以上のものを組み合わせるのもいいね。



海や水をかくときは…

海といえば青! だけど、どの場所も、すべて同じ「青」かな? 水に光が当たると、透明なところや、色が薄いところ、濃いところができる。場所によっては、周りにあるものが映りこんでいることもあるはず。いろんな色で表現してみてね。



*作品応募のきまりについては、P2をご確認ください。

こう さく 工作のポイント

工作は下準備が大切!

工作を始める前には、準備することが大切。設計図をかいたり、必要な道具をそろえたりして、とちゅうで「これはどうするんだっけ?」とこまることがないようにしておこう。ノコギリやキリ、彫刻刀など、危ない道具を使うときは、目をおおうゴーグルなどを用意しておこう(低学年の子は、大人の人といっしょにつかってね)。

そもそも、何をつくるか思い浮かばない! そんなときは、図書館などで工作の本を探してみよう。思いもよらない材料の使い方や、テクニックを知ることができ、アイデアがわいてくるはず。



たとえばこんな材料を使ってみよう!



こう さく 工作 テーマの例

- 海でひろったごみを材料にして作品を作ってみる
- 漁をした体験を工作でありのままに表現してみる
- 未来の海の環境を想像し、作品を作ってみる



*魚介類などは種類や場所によって採取が禁じられていることがあります。法令を守って行ってください。

*作品応募のきまりについては、P2をご確認ください。



作文のポイント

まずは設計図をかこう

たい けん さく ふん じ ぶん つく ものがたり そう さく ふん さい しょ せっ けい ず
体験をかく「作文」も、自分で作った物語をかく「創作文」も、最初に設計図を
おな うみ ゆた
かいておくと、まとめやすくなるよ。ここでは同じ「海の豊かさ」というテーマで
さく ふい そう さく ふん せっ けい ず
作文と創作文の設計図をかいてみよう!



さく ぶん せつ けい ず **作文の設計図**

自分が体験したこと(事実)

じぶん たいけん じじつ

テーマを選ぶきっかけとなった出来事をかこう。

例 なつやす かなく うみ あそ
夏休みのはじめに、家族といっしょに海へ遊びに行った。そこではじめて釣りをすることに。

まとめ

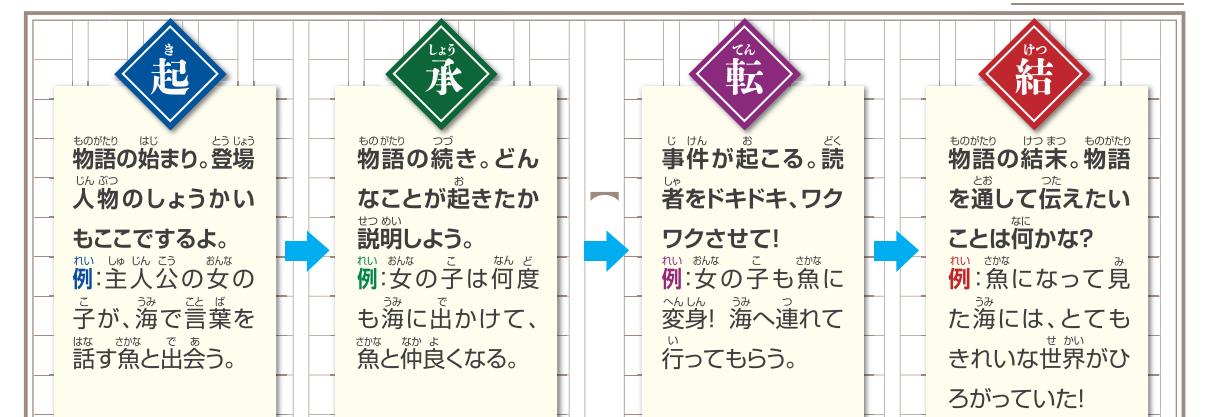
じぶん けつろん さいご
自分なりの「結論」をかこう。最後に「テーマ」を入れるとまとめが出るよ。

例 うみ ゆた まも
ひとり うみ かんしん たよう
せい し たいせつ おも
海の豊かさを守っていくためには、まずは一人ひとりが海への関心や、生きものの多様性をもっと知ることが大切だと思う。

そのとき思ったこと(意見)

おも じぶん かんが おも
たいけん じら い
体験をして、自分が考えたこと・思ったことをかこう。調べたことを入れても◎。

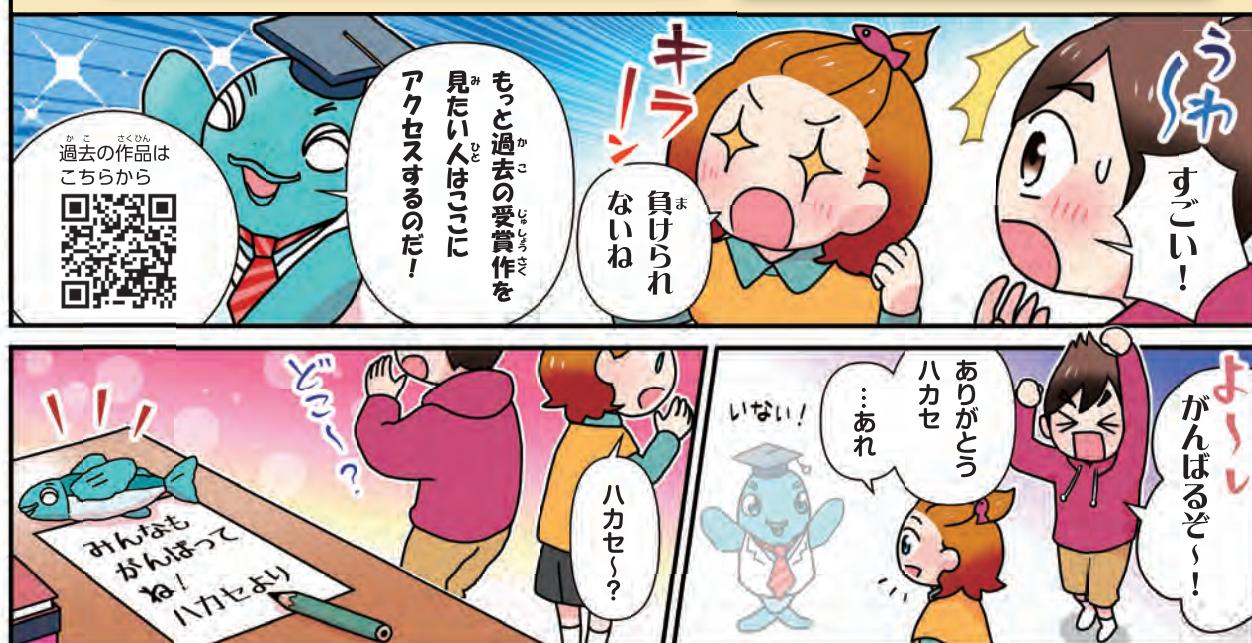
例 うみ い ばしょ
うみ まも
かん
海に行ったら、とてもきれいな場所だつた。このきれいな海をずっと守っていきたいと感じた。



さく ぶん 作文 テーマの例

- なつ やす うみ あそ たの おも で さく ぶん
● 夏休みに海で遊んで楽しかった思い出を作文にしてみる
 - うみ み かん み らい おも あ さく ぶん
● 海を見て感じたことを、未来への思いと合わせて作文にしてみる
 - そぞう せ かい うみ さかな かわ わ ものがたり
● 想像の世界で、海のなかで魚と会話する物語をつくる

*作品応募のきまりについては、P2をご確認ください。





うみ さかな まも
海と魚を守るニッスイグループの取り組み

ゆた うみ まも 子どもたち ひ 豊かな海を守り未来へ引きつぐ

「海とさかな」自由研究・作品コンクールの協賛を第1回開催から続けているニッスイグループは、地域や海の恵みを持続可能なカタチで活用している会社です。たくさんの生き物がすみ分けられる海を守り、今の小学生が大人になったときにも今と変わらない豊かさを保つことが必要だと考えています。

このページでは、海と魚を守るニッスイグループの取り組みの一部を紹介します。



商品のプラスチック包装の削減の取り組み

加工食品の包装には、プラスチックが使用されています。プラスチックは食品の品質を保ちおいしく食べるためには必要不可欠なものです。しかし、製造時に二酸化炭素が排出されたり、使用後には正しく処分しないと海の汚染につながる恐れがあります。

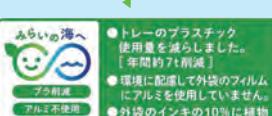
ニッスイでは、冷凍食品や練り製品などに使用するプラスチックについて、こうした環境への影響を少しでも減らす取り組みを行っています。お客様が環境に配慮した商品を選べるよう、独自のエコマーク「みらいの海へ」をパッケージに表示しています。このエコマークは、「環境への配慮が海の豊かさと人々の明るい未来につながる」ということを伝えています。

お客様が環境に配慮した商品を選べるように、ニッスイの製品に表示しています。

こ もの おも デザインに込めた想い



もり かわ うみ みず じゆく かわ い み
森・川・海の水の循環の意味
を込めて、「∞」(infinity、無
限)をモチーフとしました。
マークの左側はエコへの取り
組み、右側は豊かな海を示し
ています。環境への配慮が海
の豊かさと結びつき、ひいては
人々のいきいきした生活と希
望ある未来につながっていく
ことを表現しています。



「トレーのプラスチック使用量を減らしました。(従来比〇%削減)」などの具体的な内容とマークを表示

もり かわ まも うみ まも 森や川を守ることで海も守る

ゆうすい もり うみ かわ つう えい よう
湧水は森で生まれ、川を通じて栄養をた
くわえ、海に流れ込みます。森や川が豊かで
なければ、海も豊かにならず、魚たちも育ち
ません。「森・川・海」のつながりの大切さを
学び、実践する場として、大山隠岐国立公
園内の船上山のふもとにある森林を「おさ
かなをはぐくむ湧水と海を守る森」と名づけ
て保全活動を行っています。ニッスイグルー
プは、海の恵みを育む根源となる森の保全
に取り組んでいます。



下草刈りを行う様子



保全活動の様子

ひとりひとりの取り組み



荒川環境学習の様子

ニッスイグループでは2010年から、全国で事業所周辺の清掃活動「クリーンアップ作戦」を行っています。ポイ捨てされたごみは川に流れ、やがて海に行きつく可能性があります。「クリーンアップ作戦」では、ごみが海洋へ流れるのを防止することを目的に実施していることを従業員に周知し、事業との関連を明確にしています。これまで実施した全21回で延べ26,360人が参加し、第14回以降で18,976kgのごみを集めました。

また、NPO法人の協力を得て、荒川の環境や生物多様性について学び、河川敷に漂着したごみを拾う清掃活動を通して、課題解決のために一人ひとり

が身近なところから「できることは何か」を考えるきっかけとしています。単なる

ごみ拾いではなく、地域社会と連携しながら海を守るための活動の一つです。

うみ かん きょう まも 養殖のエサの工夫で、海の環境を守る

ようしき おこな じ ぎょう ひと さかな ようしょく うみ もう い す
養殖はニッスイが行う事業の一つです。魚の養殖では、海に設けられた生簀の
なか さかな し いく さかな あた かいてい し す い す し う い うみ かんきょう
中で魚を飼育しますが、魚に与えるエサが海底に沈み、生簀の周囲の海の環境
あつ か おそ ふせ はい ごう し りよ おお し よう
が悪化する恐れがあります。それを防ぐため、ニッスイグループでは「ドライペレット
よ と呼ばれる配合飼料をエサとして多く使用しています。「ドライペレット」はゆっ
かいてい し す さかな た かくりつ たか かいてい し す お せん
くりと海底に沈むため、魚が食べる確率が高まり、海底に沈んだエサによる汚染
を減らすことができます。

さかな なか はん た のこ
しかし、魚たちがお腹いっぱいのときにもご飯をあげてしまうと、食べ残しが出
てしまします。そこで、ニッスイは魚の習性を元にAIやIoTの技術を活用し、魚た
なか す じ どう あた あら かはつ
ちがお腹が空いたときに、自動でエサを与える新しいシステムを開発しました。こ
れにより、エサのムダを減らすことができただけでなく、エサを与える人の作業そ
のものも減らすことができました。海洋環境の保全を通じて、次世代に豊かな海
ひ つ を引き継いでいきます。



自動でエサを与える給餌システム

